

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受 理 番 号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|---------------|---------------|----------------|-------|--------|
| 26-80 | 中学校 | 社会科 | 歴史的分野 | 第1～3学年 |
| 発行者の 番号・略号 | 教科書の 記号・番号 | 教科書名 | | |
| 35 清水 | 歴史 731 | 中学 歴史 日本の歴史と世界 | | |

1 編修の趣旨及び留意点

本書は、平成20年3月に改訂された中学校学習指導要領の趣旨に則り、また改正された教育基本法や学校教育法の規定などを踏まえて、以下を趣旨として編修しました。

① 歴史への関心・興味を喚起する教科書

- ▶ はじめて系統的に歴史を学ぶ生徒の発達段階に考慮し、歴史的事象を丁寧に、平易な文章で説明することに意を用いました。
- ▶ 小学校での学習内容とのつながりに配慮し、巻頭や各章扉など導入となるページに既習の人物やできごとに関する写真を多く掲載するなど、関心を喚起する工夫をしました。
- ▶ 写真や絵画・地図・概念図・史料・系図などを豊富に掲載し、生徒が立体的かつ多角的に歴史を把握し探究できるようにしました。
- ▶ コラムや特設ページにおいて、歴史の中に見られる興味深いテーマや身近な話題を取り上げ、知的好奇心を高められるよう工夫しました。

② 歴史の流れを大きく捉える教科書

- ▶ 細かな知識の習得に止まらず、生徒が各時代を大観し、その特色を把握して自らの言葉で表現できることをめざし、導入やまとめを章(時代)ごとに設けました。
- ▶ 各テーマにおいても、学習目標となる問いかけやまとめのための問いかけ・作業指示を設け、時代の状況を的確に捉えられるよう配慮しました。

③ 「今」につながる教科書

- ▶ 近代が現代社会の成り立ちに重要な意味をもつという立場から近代史の記述を充実させ、公正な視点から現代の諸課題について考え判断する力を養うことができるよう配慮しました。
- ▶ 人権や環境などの社会的問題のほか、現在の私たちの生活につながる事象を特に注目して取り上げ、その歴史的な成り立ちや背景・変遷を理解できるよう記述しました。

- ▶ グローバル化という時代の要請に応えるため、日本史の記述を中心しつつ、その背景となる世界史、特に東アジア史・欧米史についても、必要と思われる事項を丁寧に記述しました。

④ 多角的・自主的な学習を促す教科書

- ▶ 史料の読み方・扱い方など歴史を学ぶための方法を紹介し、様々な情報を整理して多角的・客観的に考察する力を養うことをめざしました。
- ▶ 随所に問いかけを設け、生徒の考察を促し表現する力を身に付けさせるとともに、自ら課題を見出し解決する力を養うことができるよう工夫しました。

江戸幕府は、どのように全国の大名を支配したのだろうか？

まとめてみよう

江戸幕府の大名の統制について、次の語句を使って説明してみよう。〔武家諸法度、参勤交代〕

〔深めよう〕 親藩・譜代大名・外様大名について説明してみよう。また、それぞれの大名を調べよう。

2 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、以下の基本方針に基づき編修されました。

① 教育基本法第2条第1号に関して

- ▶ 歴史に関する知識を身に付け、日本人あるいは地球市民としての教養とするとともに、その知識を生かして現代の社会を主体的に考察し、様々な事象と課題の真理を追究してよりよい未来を築くことができるよう、日本と世界の歴史について丁寧かつ具体的に記述しました。
- ▶ 人類共通の経験としての歴史を謙虚に学び多角的に考察する姿勢を重視し、公正な態度や道徳心を養うことができるよう配慮しました。また、協働学習についての紙面も用意し、情操面・身心における成長の促進にも資するものとなりました。

② 同第2号に関して

- ▶ 個人の価値が見出され尊重されるようになってきた歴史的経緯を記述することによって、その重要性を知り、自他の価値と能力を互いに認め合う姿勢を身に付けることをめざしました。
- ▶ 創造や自主・自立の精神を重んじ、それらを育むことができるよう、先人たちが政治・経済・文化活動や技術開発などあらゆる分野で不断の努力を重ねて職分を全うし、よりよい社会・生活と豊かな人間性を追求してきたことを系統的に記述しました。

③ 同第3号に関して

- ▶ 民主主義や基本的人権、男女の平等などが先人たちの努力によって歴史的に獲得されたものであることを記述し、それらを重んじ発展させていくことの大切さを理解するとともに、その実現のために主体的な取り組みや他者との協力を重視する態度を養うことをめざしました。
- ▶ 社会の発展や公共の福祉に尽くしてきた日本や世界の先人の歩みを記述し、またそのような人物を具体的に紹介することにより、社会に主体的に参画することの必要性を理解できるよう配慮しました。

④ 同第4号に関して

- ▶ 歴史の中では時に多くの人命が危機にさらされるできごとがあったこと、また人々がそれを克服して

きたことをも記述し、生命の重大な価値に気付かせ、それを尊ぶ姿勢と心を培うことができるように配慮しました。

- ▶ 歴史を通じて人々が多様な自然環境の中でそれを利用または破壊しながら生活を営んできたことを記述し、これを通して自然とのかかわり方を考え、共生をはかる態度を育成することをめざしました。

⑤ 同第5号に関して

- ▶ 我が国が東アジアをはじめとする世界の諸地域と関連しながら特色ある伝統と文化を形成し発展させてきたことについて、写真や地図などを多用しながら記述しました。ユネスコの世界文化遺産と日本の国宝の写真にはそれぞれマークを付して注意を喚起しています。このような教材化への取り組みにより、様々な歴史的遺産と伝統・文化の価値を見出し、それらとそれらを生み出した地域や人々に敬愛の念を持ち、尊重する態度を養うことをめざしました。



- ▶ 日本を含む世界の歴史上の人々が自己の郷土や国家の発展に尽力してきたことを記述し、自他の国や文化・宗教などを互いに尊重し国際理解・異文化理解に努める態度を養うとともに、国際社会の諸課題と恒久平和のために能動的に取り組む姿勢を培うことができるよう配慮しました。

3 対照表

| 図書の 校正・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--------------|---|--|
| 序章 | <ul style="list-style-type: none"> ● 知識の定着や友人との人間関係の構築に寄与するものとなるよう、小学校で学んだ知識を生かしながら、グループで探究を進める学習方法を提示しました（第1号）。 ● 我が国に残る史跡や文化財の写真を古代から現代まで系統的に配列し、我が国が長きにわたり文明を発展させてきた様子が分かるようにしました。また、世界地図とともに教科書で扱われる世界の歴史的なできごとや遺跡を示しました（第5号）。 ● 日本列島と世界の地理的様相や自然災害の歴史を紹介し、自然といかに共存していくかを考えさせるとともに、過去から学び未来に向けて諸課題を解決・克服するためのものとしての歴史学習の意義について記述しました（第1号・第4号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 口絵①～⑤ ● 口絵①～④、⑧～⑨ ● 口絵⑥～⑦ |
| 第1章 | <ul style="list-style-type: none"> ● 原始・古代の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ● 人類が厳しい自然環境の中で進化したこと、また農業を中心に日々生産活動に従事し、道具の改良など様々な工夫によって自然を利用しそれと共存しながら生活を営んできたことを記しました（第2号・第4号）。 ● 今日につながっていく国家のしくみを整え、公共の精神に基づいて社会の形成と発展に寄与した人々とその考え方・思想について記述しました（第3号）。 ● 現在の国際社会の平和と発展について考察するための契機として、特に東アジアを中心とする国々の関係について丁寧に記述しました（第5号）。 ● 我が国を含む世界の古代文明について、原始・古代の人々が創造した制度や宗教・もの・建造物、日本に伝わる神話・伝承などを図版・写真とともに取り上げ、伝統としてのそれらを敬愛する態度を持ちうるよう配慮しました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1章全て ● 6～23頁、41頁 ● 16～17頁、19頁、29頁、32頁、34～35頁、37頁 ● 24～25頁、27頁、32～35頁、42～43頁 ● 第1章全て |

| 図書 校正・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|-------------|---|---|
| 第2章 | <ul style="list-style-type: none"> ●中世の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ●先人がその土地の自然環境に応じた作物の栽培や農業技術の改良に努めながら生産力を高めてきたことや、手工業・商業を発展させてきた人々の様子を、絵画資料などを豊富に用いながら記しました（第2号・第4号）。 ●戦乱の中で、民衆が生活や共同体を守るために自ら団結し、自治的な社会を作り上げていったことや、戦乱からの復興を遂げたことを記述しました（第3号）。 ●中世において現代にまでつながる芸術や生活様式が形成されたことを記し、伝統文化への理解を深めるとともに、今日の生活文化の背景を捉えることができるよう配慮しました（第5号）。 ●東アジアに成立したおもな国々と日本との政治的・経済的関係を系統的に記述し、武力を用いた衝突がありながらも互いに関係を深め、東アジア全体で活発な交易が行われるようになったことに触れました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●第2章全て ●66～69頁、82～83頁 ●80～81頁、84～85頁 ●70～71頁、85頁、86～87頁 ●58～63頁、72～73頁、76～79頁 |
| 第3章 | <ul style="list-style-type: none"> ●近世の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ●身分制度が確立し、個人の価値や自由が制限される中でも、人々がそれぞれの職分を果たしながら生活を営み、独自の文化を創造したことを記述しました（第2号）。 ●その時々々の為政者や宗教者などが積極的に政治・社会制度の整備や改革に取り組み、社会の安定と発展に寄与したことについて、改革の前後の状況や影響、功罪まで含めて具体的に記述しました（第3号）。 ●農業や鉱山業など自然の利活用が盛んになった様子や、自然災害によってしばしば社会の安定が脅かされた様子を記述し、自然とのかかわり方や環境保全について理解と考察を深められるよう留意しました（第4号）。 ●近世において、今日も親しまれている伝統文化や特産物が、海外の影響を受けながら、あるいは独自の工夫が重ねられる中で生み出されたことや、身近な地域で育まれてきたことについて記述し、それらの探究を通して郷土への愛着を深められるよう配慮しました（第5号）。 ●当時の日本を取り巻く世界史的状况を記述し、日本を含む国と地域が制約のある中でも関係を築き相互に影響を与え合ってきたことについて、生徒が国際社会の一員としての自覚と責任をもつ契機となるよう、意を用いて記述しました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●第3章全て ●102頁、110～111頁、120～123頁、134～137頁 ●91頁、97頁、99頁、100～102頁、108～109頁、124頁、128～131頁 ●93頁、94頁、97頁、116～117頁、129～131頁 ●104～105頁、116～119頁、125～127頁、136～137頁、138～141頁 ●90～95頁、98～99頁、112～115頁、132～133頁 |
| 第4章 | <ul style="list-style-type: none"> ●近代の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ●官民を問わず様々な人が将来を見据えながら自主的・自律的に改革や運動、勉学や勤労に邁進して新時代を築いた様子を、具体的な人物や事例を多く挙げながら記述しました（第2号）。 ●民主主義や基本的人権など自由と平等を尊重する動きが世界的に広まったことを記述し、政治・経済や教育・文化などあらゆる面において改革が行われた経緯と今日に至る近代社会の歴史的意義を捉え、公共の福祉と主体的な社会参画のあり方について考察することができるよう配慮しました（第3号）。 ●産業の発達にともない、自然の汚染や破壊が進む一方で、環境保全の意識が芽生えていったことを記述しました（第4号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●第4章全て ●150～151頁、153頁、155頁、158～159頁、162～163頁、164頁、171頁、172～175頁、180～183頁、189頁、198～205頁 ●150～153頁、158～173頁、178～187頁、198頁、200～203頁 ●152～153頁、198～199頁 |

| 図書 の 校正・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|------------------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●帝国主義の進展により世界の一体化が促進された一方、列強により世界分割が行われ、各地の伝統的な産業や文化が変容を迫られていったことを記し、平等かつ平和的な国際関係の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性に気付かせることに意を用いました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●146～149頁、154～157頁、160～161頁、176～179頁、187～197頁 |
| 第5章 | <ul style="list-style-type: none"> ●二つの大戦期の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ●この時代に現代の私たちの生活様式の基礎が形成されたことや戦争がもたらす生活への影響を記述し、生徒が自らの生活のあり方や、それにかかわる現代的な社会問題を客観的に捉え直す契機となるよう配慮しました（第2号）。 ●民主主義や人々の権利・平等などが、戦争や差別によって著しく制限された様子を記すとともに、差別の解消や権利の獲得に積極的に取り組んだ人々やその運動について記述しました（第3号）。 ●戦争を通じて多大な人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを記述し、生命と自然を尊重する心を育成できるよう意を用いました（第4号）。 ●二つの大戦が起こった経緯を、当時の国際関係を含めて丁寧に記述し、対話の重要性に気付かせ、平和的な国際社会の構築と発展を希求し、それに寄与する姿勢を育むことができるよう配慮しました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●第5章全て ●222～225頁、240～241頁 ●214～221頁、223頁、227頁、238～239頁 ●208～209頁、232～237頁、242～245頁 ●208～213頁、226～243頁 |
| 第6章 | <ul style="list-style-type: none"> ●戦後から現在に至る日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。 ●家族制度や教育の民主化がはかられるとともに、高度経済成長などを通じて労働や生活状態に変化と向上が見られたこと、また新たな問題も生まれてきたことを記述しました（第2号）。 ●民主化や差別解消などの実現に向けて戦後様々な改革や運動が進められたことを記し、それらの維持とさらなる発展のために、他者と協力し工夫を重ねることの必要性に気付かせることができるよう配慮しました（第3号）。 ●戦後には産業の発展や核開発などにより自然環境や人々の健康を脅かすできごとがあり、対策がとられ克服の試みがなされてきたこと、一方で未解決の問題があることも認識できるよう意を用いて記述しました（第4号）。 ●戦後の世界では様々な対立がありながらも国際協調の努力が続けられてきた一方で、なお紛争が起こっている現状について、世界平和のために何が必要かを生徒が考察するために資するものとなるよう記述しました（第5号）。 | <ul style="list-style-type: none"> ●第6章全て ●250～253頁、260～263頁、271頁、273頁 ●248～251頁、256～257頁、270～273頁 ●256～257頁、260～261頁、270頁、272～273頁 ●253～259頁、261頁、264～269頁、272頁 |

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ▶義務教育であることを踏まえ、社会人が身に付けるべき知識と教養として、必要十分な基礎的事項を盛り込みました。
- ▶生徒自らが主体的に取り組む研究活動やフィールドワークを重視し、図書館・博物館の利用法・活用法や家族・地域の人への聞き取り調査の方法を示すなど、学習の場が学校のみならず社会に広くあることに気付かせ、社会の一員としての自覚と責任感を養えるよう工夫しました。
- ▶本書の作成に関しては、活字としてユニバーサルデザイン・フォントを使用し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう配慮しました。図版などは配色に留意し、色だけでなく形でも判別できるよう配慮しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|---------------|---------------|-----------------------|-------|--------|
| 26-80 | 中学校 | 社会科 | 歴史的分野 | 第1～3学年 |
| 発行者の 番号・略号 | 教科書の 記号・番号 | 教科書名 | | |
| 35 清 水 | 歴 史 731 | 中学 歴史 日本の歴史と世界 | | |

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 小学校で学んだ内容の復習と中学校の歴史学習の導入を適切に設置

▶ 学習指導要領の趣旨に基づき、巻頭には、小学校社会科第6学年において学習した我が国の歴史上の人物やできごとについて、時代ごとの特色を考えまとめるYチャート作成の学習を設け、小学校での学習内容の復習とともに中学校の歴史学習の導入としました

▼ □ 絵 ③～④



② 生徒の理解を深める丁寧かつ平易な文章

▶ 指導要領の「内容」「(2) 古代までの日本」から「(6) 現代の日本と世界」までに該当する範囲においては、生徒の理解を助けるため、具体的かつやさしい文章をこころがけました。

▶ 個別的事象の因果関係も丁寧に記述することで、生徒の理解を深め、興味・関心を高められるよう配慮しました。

③ 時代を把握し大観するための明確な学習目標とまとめ学習

▶ 歴史を大観できるよう、巻頭において写真などを用いて時代ごとに特色を把握しまとめるための具体的方法 (Yチャート) を提示しました。

▶ 章扉においては、各章で扱う時代を代表する写真、小学校で学んだ事項に関する写真を配置し、それらを読み取ることでこれから学ぶ時代の特色を予測し展望できるようにしました。また、問いかけによってその章における学習の目標を示しました。

▶ 各テーマは見開き2ページで構成し、学習の指針となる問いかけとまとめ

▼ 第3章扉 (p.89)



の問いかけを設けました。これらによって学習目標を明確化し、生徒が学習内容について理解と考察を深められるようにしました。

▶章末においては、年表や写真などを用いて各時代を振り返る作業を設け、歴史の移り変わりと事象の歴史的意義を捉えられるようにしました。また、生徒自身の言葉で表現させる問いを設けることにより、章扉や各テーマと呼応した学習のまとめができるよう工夫し、かつ的確な判断力や豊かな表現力の養成に資するものとなりました。

▼ p.108 ~ p.109

第3節 江戸幕府の成立と発展

江戸幕府の成立と大名統制

幕府の成立は、徳川家康が1603年に江戸に幕府を開いたことによる。徳川家康は、徳川氏の名を以て幕府を開いた。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。

江戸幕府の政策

幕府は、徳川氏の名を以て幕府を開いた。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。徳川氏の名は、徳川氏の祖である徳川氏に由来する。

▼ p.144

近世の日本と世界をまとめてみよう

① 次の年表の1~10にあてはまるできごとや人物を、下のア~コの中から選ぼう。
② 右のA~Dはそれぞれ年表中のどの時代のものか。文化の欄に記号で書き入れよう。

| 年 | 出来事 | 文化の欄 |
|----|---------------|------|
| 15 | 徳川家康が江戸に幕府を開く | A |
| 16 | 徳川家康が江戸に幕府を開く | B |
| 17 | 徳川家康が江戸に幕府を開く | C |
| 18 | 徳川家康が江戸に幕府を開く | D |

③ 次の地名を地図で確認しよう。【幕府、京都、江戸、長崎、対馬、琉球、松前】

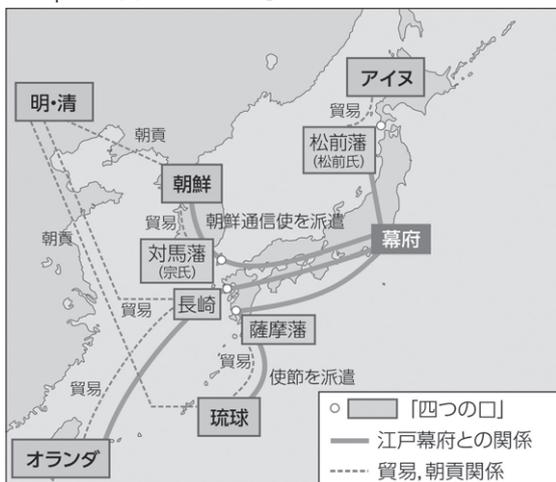
④ 写真を見て、近世の政治や文化の特徴について考えてみよう。

④ 世界史的記述の充実

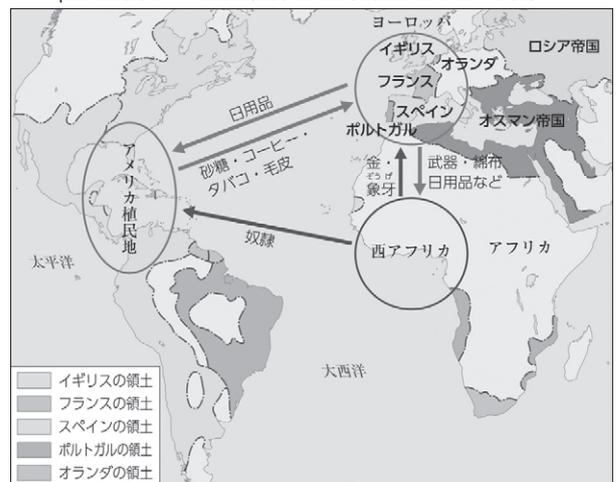
▶日本史の記述に加え、日本史を理解する上で必要と思われる世界史的な背景についても、東アジア史・欧米史を中心に丁寧に記述しました。

▶特に東アジア世界と日本とのつながりを重視し、その関係史を系統的に記述しました。

▼ p.144 図1 「四つの口」



▼ p.148 図1 大西洋世界と18世紀ころの三角貿易



<世界史・東アジア史について記述がある項目>

| 時代 | 項目 | 時代 | 項目 | 時代 | 項目 |
|-------|--|----|--|-----|--|
| 原始・古代 | ・大河が生んだ文明 ・地中海が育てた文明 ・東アジアで生まれた文明 ・東アジアのなかの日本 ・隋・唐王朝とイスラーム帝国 | 近代 | ・近代をむかえる東アジア ・アメリカ植民地の発展 ・アメリカの独立とフランス革命 ・産業革命と近代社会の幕開け ・欧米諸国の勢力拡大 | 大戦期 | ・第一次世界大戦と日本 ・ロシア革命 ・第一次世界大戦後の世界 ・民族運動の高まり ・民主主義と国際協調のゆらぎ |
| | ・宋王朝とモンゴル帝国 ・東アジア世界とのかかわり | | ・欧米諸国のアジア進出 ・新しい国際関係 | | ・満州事変と軍部の政治介入 ・日中戦争と戦時体制 ・第二次世界大戦のはじまり ・アジア・太平洋地域の戦争 ・占領地と植民地のうごき ・第二次世界大戦の終結 |
| 中世 | ・ヨーロッパ世界の形成 ・航路開拓とヨーロッパの拡大 ・アジアの交易 | 現代 | ・近代とむかいあう中国と朝鮮 ・日清戦争 ・日露戦争 ・日本の植民地統治 ・中国の革命と日本 | 現代 | ・第二次世界大戦後の世界 ・国際社会への復帰 ・冷戦下の世界 ・沖縄の復帰、中国・韓国との関係 ・社会主義国の変化と冷戦の終結 ・冷戦後の世界 ・今後の課題 |
| 近世 | ・外国や周辺諸国との関係 ・欧米諸国の接近と対応 | | | | |

⑤ 調査・研究活動を促し、多角的な考察に資する特設ページ

- ▶ 歴史を主体的に学習できるよう、歴史学の方法論に関する特設ページ「歴史のとびら」を設け、各種史料の扱い方、読み取り方や、歴史研究における留意点などを示しました。
- ▶ 本文ページで扱った歴史的事象をさらに深め、当時の社会・文化などを多面的に読み解き考察するための特設ページ「もっと知りたい歴史」も設置しました。

▼ p.38

関連ページ▶ p.36, 42, 43

歴史のとびら ② 資料を読み取る

木簡は何のためにつくられ、何が記されていたのでしょうか？ 木簡を読み取って、古代の貴族の生活について考えてみましょう。

さまざまな形態の資料

歴史上のできごとや、そのできごとがなぜおこったのか、そのできごとの結果はどうなったのか、など、歴史のうごきを正確に理解するためには、過去のできごとを記した資料（史料）にもついで考えていくことが大切です。ただ、歴史事実を題材とした歴史小説など創作された作品は資料そのものとは異なります。

さまざまな資料のなかでも、発掘によって出土した木簡は、税など都に運ばれる荷物の札などとして利用されて、用がすんだことにより捨てられたものなので、作成された時期が捨てられた時期と近い資料です。この点のちのちで詳しく「日本書紀」などの歴史書と異なる特長といえます。

木簡を読み取ってみよう

それでは、木簡に書きつけられた文字資料から、どのようなことがわかるのでしょうか？ 具体的にみてみましょう。

木簡とは木の札（簡）のことです。たくさん出土品が分析・研究され、仕分け用のラベルとして、荷札として、あるいは伝票、メモ用紙がわりとして使われていたことがわかってきました。左ページの二つの木簡は荷札木簡。平城宮跡から出土したもの、どちらも要す。

(左) 長さ19cm、幅1.9cm、厚さ0.6cm
(右) 長さ5.5cm、幅0.9cm、厚さ0.2cm
(奈良文化財研究所蔵)

木簡の使い方
上段に切り込みのある木簡は、ひもを巻くようにかけて使っていたと考えられています。

左は奈良時代の荷物につけられていた荷札木簡です。どこからきた、何の荷札でしょうか？ まず読み取って、□に書きこんでみましょう。

右は平安時代の荷物につけられていた荷札木簡です。どこからきた、何の荷札でしょうか？ まず読み取って、□に書きこんでみましょう。

こちらは、奈良時代（いまの滋賀県）の「笠置（＝乳製局）」、「笠置（＝2200）」につけられていた荷札です。2200ccはカップ1杯強とたいへん少量なもののため、木簡も最小サイズのものひとつです。

38 第1章 原始・古代の日本と世界

▼ p.122

関連ページ▶ p.120, 125

もっと知りたい歴史 ⑤ 江戸のにぎわい

江戸幕府は、諸大名を動員して江戸城と江戸の町の建設を進めました。18世紀に入ったころ、江戸は総人口100万人をこえる都市になったと考えられています。江戸に住む人びとのくらしのなかから、独特の生活文化がつくりだされていきました。

江戸の成り立ち

海に面した低い場所に位置する江戸に、城と町をつくるためには、さまざまな工夫とぼう大な労力が必要でした。たとえば、①台地をけずって入り江を埋め立てる、②運河を掘って物資を運び込む、③谷や川に手を加えて堤をつくる、④上水や下水を整備する、⑤石垣に使う大きな石を船で運ぶ、などです。17世紀前半は工事の連続でした。その後、明暦の大火（1657〔明暦3〕年）からの復興をへて市街地はさらに拡大し、18世紀前半には、「北は千住から南は品川まで家続き」といわれる状態になりました。

江戸の町と文化

日本橋から北へのびる通り筋や、それと交差する本町通りには有力な商人が軒をつらね、江戸の繁栄を象徴する場所になっていました。また、庶民の住居がきわめてせまかった江戸では、戸外での娯楽が発達しました。とくに隅田川沿いは、春の桜、夏の夜店や花火など、四季それぞれに人びとが集まる場所になっていました。

江戸の発展と土地利用（1856年） 幕末の江戸の範囲は、寛田川より西は荒山手前よりやや広い範囲、そして隅田川より東の荒川・荒川地域でした。だいたい、江戸城の周囲5kmにおさまる広さです。現在の東京駅付近、丸の内・大手町のビジネス圏、霞が関の官庁街などは、江戸時代は大名屋敷が広がっていました。〔参考資料〕

122 第3章 近世の日本と世界

2 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当 時数 |
|----------------------------|------------------|----------|------------|
| 序 章 | | | 3 |
| ◆キャッチコピーづくりをはじめよう | (1) 歴史のとらえ方 ア | 口絵①～④ | 2 |
| ◆歴史の流れを知ろう | (1) 歴史のとらえ方 ア | 口絵⑤ | 0.5 |
| ◆私たちの住む日本列島 | (1) 歴史のとらえ方 ア, イ | 口絵⑥～⑦ | 0.5 |
| 第1章 原始・古代の日本と世界 | | | 24 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 5頁 | 0.5 |
| 第1節 文明のおこりと日本のはじまり | (2) 古代までの日本 ア | 6～27頁 | 8 |
| もっと知りたい歴史① 植物と日本人 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 8～9頁 | 1 |
| 歴史のとびら① 遺跡から原始の時代を探ろう | (1) 歴史のとらえ方 イ | 12～13頁 | 1 |
| 第2節 律令国家の成立 | (2) 古代までの日本 イ | 28～45頁 | 6 |
| 歴史のとびら② 資料を読み取ろう | (1) 歴史のとらえ方 イ | 38～39頁 | 1 |
| もっと知りたい歴史② 神話と伝承 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 44～45頁 | 1 |
| 第3節 貴族の政治と武士の登場 | (2) 古代までの日本 イ, ウ | 46～55頁 | 4 |
| もっと知りたい歴史③ 宮廷の女性と仮名文学 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 54～55頁 | 1 |
| 第1章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 56頁 | 0.5 |
| 第2章 中世の日本と世界 | | | 15 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 57頁 | 0.5 |
| 第1節 武士の政権と東アジアのうごき | (3) 中世の日本 ア | 58～73頁 | 6 |
| 歴史のとびら③ 絵画資料にみる人びとの生活 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 68～69頁 | 1 |
| 第2節 武家社会の展開と民衆 | (3) 中世の日本 ア, イ | 74～87頁 | 6 |
| もっと知りたい歴史④ アジアの船と海上交通 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 78～79頁 | 1 |
| 第2章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 88頁 | 0.5 |
| 第3章 近世の日本と世界 | | | 27 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 89頁 | 0.5 |
| 第1節 ヨーロッパの拡大とアジアの交易 | (4) 近世の日本 ア | 90～95頁 | 3 |
| 第2節 戦国大名と全国統一 | (4) 近世の日本 ア | 96～107頁 | 5 |
| 歴史のとびら④ 人物を調べてみよう | (1) 歴史のとらえ方 イ | 106～107頁 | 1 |
| 第3節 江戸幕府の成立と進展 | (4) 近世の日本 イ | 108～115頁 | 4 |
| 第4節 産業の発達と町人の文化 | (4) 近世の日本 ウ | 116～127頁 | 4 |
| もっと知りたい歴史⑤ 江戸のにぎわい | (1) 歴史のとらえ方 イ | 122～123頁 | 1 |
| 第5節 社会の変動と欧米諸国の接近 | (4) 近世の日本 エ | 128～143頁 | 5 |

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当 時数 |
|----------------------------|----------------|----------|------------|
| 歴史のとびら⑤ 身近な地域を調べよう | (1) 歴史のとらえ方 イ | 138～143頁 | 3 |
| 第3章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 144頁 | 0.5 |
| 第4章 近代化の進む世界と日本 | | | 31 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 145頁 | 0.5 |
| 第1節 近代社会の成立 | (5) 近代の日本と世界 ア | 146～157頁 | 6 |
| 第2節 開国と江戸時代の終わり | (5) 近代の日本と世界 イ | 158～165頁 | 4 |
| 第3節 明治維新と文明開化 | (5) 近代の日本と世界 イ | 166～179頁 | 6 |
| もっと知りたい歴史⑥ 世界見学に出かけた日本人 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 174～175頁 | 1 |
| 第4節 立憲政治のはじまり | (5) 近代の日本と世界 ウ | 180～187頁 | 4 |
| 第5節 アジアの近代化と日本のうごき | (5) 近代の日本と世界 ウ | 188～197頁 | 5 |
| 第6節 日本の産業革命と社会の変化 | (5) 近代の日本と世界 エ | 198～205頁 | 3 |
| もっと知りたい歴史⑦ 行き来する留学生 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 24～205頁 | 1 |
| 第4章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 206頁 | 0.5 |
| 第5章 二つの世界大戦と日本 | | | 20 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 207頁 | 0.5 |
| 第1節 第一次世界大戦とその後の世界 | (5) 近代の日本と世界 オ | 208～215頁 | 4 |
| 第2節 政党政治の発展と大衆文化 | (5) 近代の日本と世界 オ | 216～225頁 | 4 |
| もっと知りたい歴史⑧ 明治・大正期の食生活 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 224～225頁 | 1 |
| 第3節 ファシズムのうごきと日中戦争 | (5) 近代の日本と世界 カ | 226～233頁 | 4 |
| 第4節 第二次世界大戦と戦時下の人びと | (5) 近代の日本と世界 カ | 234～245頁 | 5 |
| 歴史のとびら⑥ 証言・体験記録からみえてくる戦争 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 243～245頁 | 1 |
| 第5章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 246頁 | 0.5 |
| 第6章 現代の日本と世界 | | | 14 |
| 章 扉 | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 247頁 | 0.5 |
| 第1節 戦後の日本と世界 | (6) 現代の日本と世界 ア | 248～257頁 | 5 |
| 第2節 冷戦下の世界と日本の経済成長 | (6) 現代の日本と世界 イ | 258～267頁 | 4 |
| もっと知りたい歴史⑨ 高度経済成長期の社会変化 | (1) 歴史のとらえ方 イ | 262～263頁 | 1 |
| 第3節 現代の社会と今後の課題 | (6) 現代の日本と世界 イ | 268～273頁 | 3 |
| 第6章をまとめてみよう | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 274頁 | 0.5 |
| 歴史学習のまとめ | (1) 歴史のとらえ方 ウ | 275頁 | 1 |
| | | 計 | 135 |